

五期俳句会第百七十六回四月六日

今回は今井さんは調子が悪いとの連絡で、投句のみとなり少し寂しい会となる。

退院や家に菜の花活けてあり

浅香さとみ

濃き紅の椿一枝蹲つくばいに

松浦武子

今ひとり仰ぐ薄墨桜かな

今井由紀子

はかまはくむすめ袴佩く娘らの夢春爛漫

塩田豆子

春雨や京の古刹の庭しづか

松浦武子

土手に腰下して君とうららかや

今井由紀子

すり硝子透かして強き春あかね

塩田豆子

春寒し再放送多きNHK

浅香さとみ

仁和寺や三つ葉つつじの華やかに

松浦武子

無言にて花の雑踏そぞろ行く

今井由紀子

川べりの桜開くも行けぬ足

久貝貞子

土塀ごし花覗かせて寺の道

塩田豆子

みやびなり社やしろいろどろ彩る花の苑その

塩田豆子

恋うて来し母なき郷さとの桜かな

今井由紀子

病み上がりが体操してる四月馬鹿

浅香さとみ

馬酔木咲く広き寺内のおちここに

松浦武子

歓声は駅ごとに満つ櫻花

今井由紀子

選句する人が一人少ないので、句も少なくなりました。

桜が月末近くになって咲いたので、桜の句が作れなかった人（私もその一人）もいました。と言って来月では遅いし

句創りは結構難しいものだと、思い知らされました。